

26PB-am234

人命救助意識の向上を指向した早期体験学習の教育効果

○八軒 浩子¹, 伊藤 栄次¹, 松野 純男¹, 大内 秀一¹, 中村 武夫¹ (¹近畿大薬)

【目的】本学では早期体験学習において、生命を大切にする薬剤師にふさわしい行動・態度をとることができるように初期救命救急講習を実施している。この教育目標の達成確認のため、講習時に薬学生の人命救助に対する意識の変化について調査を行い、3年間の結果を比較した。

【方法】2012年度から2014年度入学の医療薬学科1年生を対象に、救急現場遭遇体験およびこれまでの応急手当講習受講の有無、また人命救助に対する意識について、無記名の自記式アンケートを行った。

【結果・考察】大学入学前までの応急手当講習の受講については、約60%の学生が自動車教習所や中学高校等で受講していた。また、これまでの救急現場遭遇体験者は約20%で、その対象者は家族・親戚がほとんどであったが、今年度は他人や本人が救助対象となる例が多く見られた。救急現場遭遇に際して取った措置としては、119番通報が最も多く、次に傍観であり、救急現場において応急手当を行った者はわずかであった。救命意識の変化については、初期救命救急講習の実施後において、「たとえ一人であっても応急手当をする」と回答した者の割合が、実施前と比較して「大切な人の場合」では約40%から約80%に倍増した。また「他人の場合」でも20%以上の救命意識向上が認められた。講習体験の有無が危機対応意識の向上につながるということが明らかとなった。以上のことから、ダミー人形やAED 訓練機を使用しての参加・体験型学習である初期救命救急講習は、緊急時に心肺蘇生を実施できるという救命意識の向上につながる有益な教育の一つであることが明らかとなった。